

平成27年度 唐崎小学校学校評価書 自己評価実施後

大項目	中項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
			中項目評定	評価に関する説明	中項目評定	意見・提言等	
基礎基本の徹底と個性を伸ばす教育の推進に関して	学習指導の充実	教材研究やICT活用などに努め、楽しくよくわかる授業を実践しようと努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 整備されたデジタル教科書やインターネットの動画配信を活用できた。機器の扱いや、効果的な活用については今後も研鑽が必要である。 日々の授業の進め方について、学年で情報交換しながら検討することができた。 校内研究では「書く活動」に焦点を当てたことにより、書くことに対する抵抗は少なくなった。 デジタル教科書の導入により、ICT機器を取り入れて授業を行う機会が増えた。 家庭学習の手引きの活用を積極的に進める必要がある。 夏休みを利用して校内で研修をすることができ、実践につなげることができた。 夏休みの学習相談日を多数の参加者のもと実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用も含め、教師の授業力向上の意識を大切にしていほしい。 家庭学習の取組については、昨今の個別の家庭環境も踏まえて検討するとよいだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備されたデジタル教科書の有効な活用法についての研修を深める。 学校の授業と家庭学習の手引きとが連動するような活用を図る。 思考を深め、話し合い活動に生かすためにも、考えや理由を書き表す力を高める必要がある。
		指導体制・指導方法の工夫改善に努め、学力向上を目指した。					
		学校の学習を家庭学習につなげるために、家庭学習の手引きの配布や夏休み学習相談日の実施等、その習慣化に向けて取り組むことができた。					
		学校全体として指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。					
	学び合い	互いに認め合い支え合う支持的風土を育てる学級・学年集団作りに努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 友達の意見に対して自分の考えを述べる機会を持つようになった。 わかったことを自分の言葉で伝えあうなど、振り返り活動を取り入れた。 ハンドサインなど、学び合いのための学習ルールがある。 授業にペア学習やグループ学習を積極的に取り入れた。また、研究会を行うことでグループ学習について深めあう機会ももてた。 互いに認め、支え合うよい機会となることを意識して取り組めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いについては、参観日等に公開するなどしながら、向上を図っていたきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いを取り入れた授業についての研修を深め、授業力の向上を図る。 日々の授業についても積極的に交流し合い、学年間で日常的に授業力向上に努める。
		協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。					
		学び合いを追究する授業研究や研修会に取り組んだ。					
	体験活動の充実	各教科、総合的な学習の時間において体験的な学習を積極的に実施するように努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな「人」との関わりを大切にする機会をもつことができた。 安全マップの取組により、防犯意識が高められた。 各学年、総合的な学習の時間を中心に体験的な活動を取り入れることができています。 他者へ発表する機会を多く持つことができた。 発達段階に応じた学習内容になっているかを意識したい。 地域に出かけたり、地域の方に来ていただいたりすることで、児童の心に残る学習ができた。また、活動後にはホームページで活動内容を知らせるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 不審者に関わる避難訓練は、臨機応変な動きを体験できるので大変良い。 第5学年の「安全マップ」の学習は、防犯意識を高めるのに有効である。今後、防災に関わる学習も検討してみてもどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科では、学校探検、公園施設探検等、今後も体験的な活動を重視した活動に努める。 総合的な学習の時間では、活動の流れは定着してきている。今後は、児童につけたい力を明確にした上での指導を図る。 体験活動での取組の様子を、ホームページ等を使い保護者や地域へ伝える。
		体験的な活動においては、学習のまとめとして発表会等の時間を設定するように努めた。					
		体験活動の過程や得られた学習の成果を、保護者や地域へも発信するように努めた。					
進特別支援教育の推進	組織的・計画的な特別支援教育の体制作りに努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関との連携がさらに必要と考える。 特別支援を要する児童や子育てに悩む保護者に研修会等を紹介していく。 特別支援的な配慮を要する児童の保護者に呼び掛け、就学相談につなげていけるとよい。 特別支援的な配慮を要する児童についての情報を残し、支援に役立てることができた。 支援を要する児童に対して、細かい配慮を組織的に行うことができた。 子ども発達相談センターへの相談を活用し、アドバイスが支援に有効であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も専門的な機関と連携しながら、取り組んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会での情報をもとに、支援が必要な児童についてコーディネーターを中心に積極的に支援方法を考えていく。 支援が必要な児童や支援方法について個別の指導計画を作成し、共通理解する場を設定し、類似のケースについての支援方法を研修する。 校内研修会で事例を取り上げ、より具体的な支援の方法について考える機会を持つ。 対象児童について、関係機関との情報共有を密にし、児童の情報や支援の状況を残し、引き継ぎ等の連携を図る。 	
	校内委員会を組織し、支援を要する児童の個別の指導計画を作成・活用し、支援に努めた。						
	巡回相談等を活用し、関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。						
豊かな人間性と社会性を育む教育の推進に関して	生徒指導・教育相談の推進	当たり前の5箇条を意識するなど、決まりを守って行動できる児童を育てるよう指導した。	A	<ul style="list-style-type: none"> 問題が起こっても、学年、生徒指導主任、管理職と連携してチームとして迅速に対応することができた。 教育相談月間の取組を校内一斉に実施できた。教師と児童とがゆっくり話せる機会となった。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を、児童理解に努めることや対応策を協議したりすることができた。 繰り返し指導していることで、いじめに対する意識が高まっている。 あいさつが習慣化していない。返事をすることや相手に目を配ることの指導に必要性を感じる。 教育相談月間の取組方法については発達段階に応じて学年で統一して実施するなどの見直しが必要である。 配慮を要する児童について、担任以外の教師も電話をしたり家庭訪問をしたりして関わることができた。保護者と担任のコミュニケーションもそれによりスムーズになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 見守っている様子では、児童は挨拶をよく返している。大人（教師、保護者、地域）からも積極的に声をかける環境づくりも必要であろう。 いじめに関わる課題については、保護者の願いや意見も真摯に受け止め、時間を空けずに迅速な対応を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> 当たり前の5方条について、年度始めに掲示物を刷新する。方針を示し、児童・教師共に理解を深める。特に挨拶、返事、靴そろえについては視覚に訴えるなど掲示を工夫する。他の掲示物も同様に、わかりやすい掲示を検討する。 あいさつについて、学期ごとに道徳や学級活動の時間を通してあいさつの大切さを考える機会を持つ。あいさつをうけたら必ず対応することから指導する。また、大人から率先してあいさつを行うことで、雰囲気づくりにも努める。 学級の掲示物と日ごろの指導を連動させ、事あるごとに振り返りを行えるようにする。 学年で方針と方法を共有し合い、教育相談をさらに全体として推し進めるようにする。
		気持ちのよいあいさつや返事ができるように継続的に指導した。					
		問題行動や不登校等の課題に対して、保護者・担当と連携して組織的な指導・支援ができた。					
		思いやりの気持ちを持って人と接するよう継続的に指導した。					
		「いじめは絶対許されない」と毅然とした態度で指導し、いじめを許さない学級風土づくりに努めた。					
		日ごろから子どもとの関わりを意識的に高め、子どもが気軽に相談できる雰囲気づくり等、諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めた。					
	読書活動の推進	朝の読書タイムや読み聴かせによって、落ち着いた気持ちで一日が始まるように意識して取り組んだ。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学級に図書を置き、児童がいつでも手に取って読めるようにしている。 朝読書に静かに取り組み、落ち着いた雰囲気の中で一日をはじめることができています。日課にも位置付けられているので、継続して取り組み、習慣となっている。 毎回、読み聞かせを児童が楽しみにしている。 学級文庫が古く、児童にとって魅力的な本を増やすことが望まれる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童の読みたい本に合わせた蔵書が増えるよう、地域とも連携し、予算を集めてみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 選書会を開き、全校アンケートをもとに図書委員や教師が本を選ぶことで魅力的な本を増やしていく。 図書室や津市立図書館の本を学習に活用する機会を増やす。
		読書環境の充実に努め、読み聴かせボランティアを積極的に活用した。					
		道徳の時間を公開するなど、保護者や地域との連携も視野に入れて道徳教育に取り組んだ。					
		生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動を工夫した。					
特別活動	道徳の教材研究を行い、資料の整備に努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 道徳で学んだ内容を、日々の生活指導の際にも振り返ることで道徳の実践力につなげることができた。 道徳の資料がたくさん作られているため、授業に有効に活用できる。 実態に応じて、学年で共通の内容に取り組むことができた。 初任者の研究授業を機会として、他の教師もいろいろな題材・資料について研修を深めることができた。 学年の発達段階に合わせて、自ら企画・運営する力を育てる機会となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 5年後の唐崎の子どもたちを見据えた教育を期待する。そのために、学校だけでなく地域ぐるみで子どもの成長を考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動の時間の工夫を教師間で交流し合う。 道徳の授業のあり方や、実践を交流し合う機会を積極的につくるようにする。 道徳の教材・資料を整理してより使いやすくなるように努める。 行事の重なる時期には、学級活動の時間が取りにくい現状があるが、計画的に時間を確保していく。 	
	学級活動の時間は、自治的能力を高めるために学年の発達段階に応じて適切に指導を行った。						
関心・健康で安全な生活に関し	の全健康推進安	望ましい生活習慣が身につくように継続的に指導した。	B	<ul style="list-style-type: none"> 委員会を通じての呼びかけが効果的であった。 廊下の物の配置の見直しや、2階以上のトイレの窓に格子を設置するなど、改善を行ってきた。今後は校内の安全点検に加え、専門業者や教育委員会等の意見も踏まえながら、改善を続けていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 設備面での改善が進められてきている。今後は、児童自身の安全意識の高まりを望む。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だより等、啓発活動は継続的に取り組んでいく。 体力向上の取組の際には、熱中症予防やけがの防止などを児童に指導する。また、その理由についても考えられるようにする。
		施設・遊具の安全点検などは、子どもの目線で実施した。					
	推進力づくりの	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュタイム、RUNRUN月間、跳び箱・鉄棒教室など、工夫された取組がよい。また、教師が児童と共に参加することで意欲向上につながった。 学校全体で運動に取り組む雰囲気が、近年の積み重ねで当たり前のようになってきた。 体育の授業を教師間で公開し、日ごろの授業を考えることができた。 リレー大会を機会に、児童が体を動かす機会を仕組むことができた。 時期に応じた取組により、運動好きな児童が増えていると感じる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動に対して苦手意識を持つ子への意欲の向上もお願いしたい。 学級などで、集団としての目標を設定して取り組む活動は大変良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果をもとに、唐崎小学校の重点項目を見直し、より効果的な取組を再検討していく。 取組は定着しているが、さらに運動に抵抗感のある児童への励ましの声かけや個に応じた目標の設定など、適切な配慮を考えていく。
		ダッシュタイム等、運動に親しむ環境作りや体力づくりを推進する運動実践に努めた。					
推進力づくりの	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めた。						
学地域づくりに開かれ関した特色	携保活動幼小の推小進中連	保幼小中の連続性を意識し、子どもの校種間交流や教師の出前授業等の具体的な連携に努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学校と、学期末の行事の重なりを解消できるとよい。 校種間交流として、派遣された中学校の先生と一緒に体育の授業に取り組む機会ももてた。また、児童の育ちを話題にすることもでき、本校の教師の刺激となった。 園児との給食交流により、2年生児童が成長できる場となった。 入学までに園児が来校する機会が数回あり、新一年生としての学校生活をスムーズに始めるための取組ができています。 年間を通して、子どもが運動するきっかけをつくることができています。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、校種間の積極的な連携を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児との交流の取組が定着してきている。園から小学校へのさらなる円滑な接続に向け、校種を超えた教師間の情報交換にも努めていく。 合同研修会や唐崎教育研究会の機会などを利用し、唐崎の子どもの課題について話し合える機会を持つ。
		唐崎入権教育研究会（唐教研）など、保幼小・小中の校種の枠を超えた合同研修会を実施した。					
		保幼小連絡会、小中連絡会、体験入学の際など、校種間の授業公開や教育内容等についての交流に努めた。					
	の家連携・地域と	保護者との個別相談や必要に応じて関係機関との連携を図り、子育てに対する積極的な支援に努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ファミリー学習参加の内容が、工夫されており充実もしていた。 地域の方との交流が、児童の成長の場となっている。 ホームページを使い、取組の様子を紹介することができた。 唐崎入権教育研究会の部会を通じて校種間の取組を交流し、地域に向けても発信することができた。 6年生の中学校体験入学により、児童が中学生生活を考えるよい機会となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校、保護者、地域で唐崎の子どもたちを育てることに、それぞれの立場で関心を今後も高めていけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主な活動の様子について、ホームページを利用して保護者や地域に知らせることを継続的に続けていく。 ファミリー学習参加の内容やねらい等、反省点を次の学年に引き継ぎ、児童・保護者・教師にとって良い学びの機会となるように努める。
ファミリー学習参加や地域安全マップ等、保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会の実施や地域人材の活用を努めた。							
家庭・地域と連携しながら防犯・防災教育の推進を図るため、メール配信やホームページを活用した情報発信をし、安心・安全な学校作りに努めた。							

評定（達成度）の目安

達成度	指 標	達成度	指 標
A	目標を上回る達成	C	目標を達成せず
B	目標を達成または概ね達成	D	目標を大きく達成せず